



「エルサレム陥落と捕囚の預言」

エレミヤ書講解-24 エレミヤ書9:10-26 他 小野寺 望 牧師

【エレミヤ書 9章】

- 10 私は山々のために泣き声をあげて嘆き、荒野の牧場のために哀歌を歌う。そこは、焼き払われて通る人もなく、群れの声も聞こえず、空の鳥から家畜まで、みな逃げ去っているからだ。
- 11 「わたしはエルサレムを石ころの山とし、ジャッカルに住みかとする。ユダの町々を荒れ果てた地とし、住む者のいない所とする。」
- 12 知恵があって、これを悟ることのできる者はだれか。【主】の御口が自分に語られたことを告げ知らせることのできる者はだれか。何のために、この国は滅びたのか。荒野のように滅ぼされ、通る人もいないのか。
- 13 【主】は言われる。「それは、彼らが、わたしが彼らの前に与えたわたしの律法を捨て、わたしの声に聞き従わず、律法に歩まず、
- 14 彼らの頑なな心のままに歩み、先祖たちが彼らに教えたバアルの神々に従って、歩んだからだ。」
- 15 それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。「見よ。わたしはこの民に苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。
- 16 彼らも先祖も知らなかった国々に彼らを散らし、剣を彼らのうしろに送り、ついに彼らを断ち滅ぼす。」
- 17 万軍の【主】はこう言われる。「よく考えて、泣き女を呼んで来させよ。人を遣わして、巧みな女を来させよ。」

(4ページへ続く)

- 18 彼女たちは急がせて、私たちのために嘆きの声をあげさせよ。私たちの目から涙を流れさせ、私たちのまぶたに水をあふれさせよ。
- 19 シオンから嘆きの声が聞こえるからだ。ああ、私たちは踏みにじられ、ひどく恥を見た。私たちが地を見捨て、自分たちの住まいが投げ捨てられたからだ。
- 20 女たちよ、【主】のことばを聞け。あなたがたの耳に、主の言われることばを受けとめさせよ。あなたがたの娘に嘆きの歌を、隣の女に哀歌を教えよ。
- 21 死が、私たちの窓によじ登り、私たちの高殿に入り、道端で幼子を、広場で若い男を絶ち滅ぼすからだ。
- 22 「語れ。【主】のことばはこうだ。『人間の死体は、畑の肥やしのように、刈り入れ人のうしろの、集める者もない束のように落ちる。
- 23 — 【主】はこう言われる— 知恵ある者は自分の知恵を誇るな。力ある者は自分の力を誇るな。 富ある者は自分の富を誇るな。
- 24 誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは【主】であり、地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。まことに、わたしはこれらのことを喜ぶ。— 【主】のことば。』」
- 25 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはすべて包皮に割礼を受けている者を罰する。
- 26 エジプト、ユダ、エドム、アンモンの子ら、モアブ、および荒野の住人で、もみ上げを刈り上げているすべての者を罰する。すべての国々は無割礼で、イスラエルの全家も心に割礼を受けていないからだ。」
- 【コリント人への手紙第一】
- 1: 30 しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。
- 1: 31 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりにするためです。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

◆ はじめに

| 困難の中での強さ

1. 自分以外に、この世のものではない、神を誇る事ができる幸い

①自分が神と和解し、日々交わり、平安の中にいること。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 本当に誇るべきものを確認する

* このメッセージは、神・キリスト以外に何も誇らないことを学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I エレミヤの号泣 (10～11節)

1. 悲しみの大きさを表す表現

(1) 声を上げて号泣・哀歌を歌う：愛する祖国ユダの崩壊を啓示され、憂い悲しみ。

(2) 崩壊後の景色が絵画的に表現：彼の悲しみをより一層読者に伝える。

①「荒野の牧場」：青草の牧草が焼き払われて不毛の地に。

②「群れの声も聞こえず…」：羊ややぎ、さらには空の鳥さえも姿を消す。

* 6：2-3でシオンを牧場にたとえ、侵略者に食い尽くす許可を与えた。異邦人は、偶像がこの「聖戦」(6：4)を支持していると、疑うことなく猛進してくる。

2. 廃墟となったエルサレム

(1) 「石くれの山」：岩の上(標高800m)の城壁の町エルサレムは何も残らない。

* 参照 イザ25：2、37：26、2列19：25(以上はエルサレム)

その他、エレ51：37(バビロン)など→神の裁きによる廃墟の表現。

(2) 「ジャッカルの住みか」：呪われた廃墟に住む者の象徴

* 参照 イザ13：22、34：13、35：7、43：20、

エレ10：22、14：6、19：33、51：37、哀4：3、ミカ1：8、マラ1：3

また、苦難にある者が味わう内的苦痛としてヨブ30：29、詩44：19など。



3. エレミヤとイエスの哀歌

(1) 将来起こるエルサレムの滅亡を悲しむイエスに重なる。(マタ24章など)

(2) イエス時代、エルサレム神殿は表面的には栄えていたが、霊的腐敗とその後の悲劇を見抜き、涙した。

II エレミヤの問い (12～16節)

1. 捕囚の地へ (8：20で「遠い地」(バビロン)への捕囚は既に示された)

(1) エレミヤの問い「なぜこの国は滅びた」

①律法を捨て、契約を軽んじた

②かたくなな心(5：21)で、先祖からのバアル礼拝(2：8)をやめなかった。

③神のすべきことは、民をさばき、悔い改めに導くこと。(6：16、7：29)

④その方法が、バビロン捕囚：「苦よもぎ」(哀3：19)「毒の水」(8：14)、「彼らも先祖を知らなかった国々に・・・絶滅させる」16節

(2) 預言的意味と適用

①バビロン捕囚というよりはむしろ紀元70年のローマによる陥落に近い。

* その後、967人がマサダで籠城(ほぼ全員自決)、2000年間流浪の民となる。

②罪から来る報酬は死である(ロマ6：23参)。罪の生活がいかに悲惨な結果を招く；

III 惨状の中で誇るべきもの (17～26節)

1. 多くの者が地を吐き出され、命を失う惨状

(1) 「泣き女を呼べ」という命令：ユダの悲惨さを引き立てる。

* 泣き女とは、弔いの場で泣き声を上げて、涙を流すことを職業とする婦人。

* 不信仰が繰り返される時に、契約の民は地から追い出される(所有権は変わらないが)。

(2) 「死が窓をよじ登り…」：哀歌と共に、死の擬人化された表現。

2. 絶望的な状況で本当に信頼し頼るべきもの

(1) 頼ってはいけないもの(23節)＝自分の知恵や力、また富

* これらを誇るならば、偶像礼拝と同じである。

(2) 「悟りを得て主を知れ」

①「恵み(ヘセッド)」は契約に基づく変わらない愛⇔反対は民の移り気

②神との割礼のない者たち(さばきを受ける異邦人の国々の列挙)

* 当時、エジプトをリーダーとする反バビロン同盟を形成していた。

③肉体には律法によるもの、そうでないものと何らかの割礼を受けていた人々。しかし一人も「心の割礼」がないため、すべての民がさばかれる。

④主(ヤハウェ)のみを誇れ。 * 参照 1歴16：10、詩105：3

◆ まとめ：本当に誇るべきものを確認する

1. その後、そして終末におけるバビロン

①イスラエルの敵対勢力の予表であり、再び敵対することとさばきが決まっている。

* 滅びの記事は、千年王国時代の預言。エレ50：39-40、51：41-43、イザ13：20-22

②黙18：1-2の預言では、悪霊ども(「獣」は比ゆ)を閉じ込める場所である。

③神は歴史を通して栄光を表し、すべての国々をさばかれるお方。

2. クリスチャンが誇るべきもの(1コリ1：31、2コリ10：17)

①信仰が与えられていること ②主なる神を知っていること

③十字架によって義とされていること